

ひびく交え本音トーク

08年卒の大学・大学院生を対象とした就職活動のイベントがたけなわだ。景気回復と団塊世代の大量退職による企業の採用意欲の高まりに後押しされ、就職支援業者や大学ごとの「業界セミナー」や「本音トーク」なども増加傾向。学生側も「売り手市場」を見越しつつ、業界研究などの活動を本格化し始めた。動き出した08年卒就職活動の最前線をのぞいた。

(謝野信幸)



11月1日午後6時過ぎ、東京都港区のビルの会議室。企業の採用担当者を16人ほどの学生が囲んで座り、代わる代わる質問を浴びせていた。インターネットの情報に偏りがちな学生に、直接、採用担当者との意見交換の場を提供しようとのイベント。43人の学生と4社が参加した。

採用担当者を学生が囲み、業界事情や社会人としての心がけなどについて突っ込んだ質疑を続けた。東京都港区で

08年卒の就活イベント最前線

女子学生が「学生と社会人との最大の違いは」と尋ねると、採用担当者は「利益を求めて働くこと。会社に入れればすぐに分かる」。男子学生が「仕事上での最大のミスは」とたずねると、「ダメな上司をクビに出来なかったことだ」と真顔で即答した。

武蔵工大3年の本田泰史さんは「ミスの質問には、誤発注とかの回答を想像していたので驚いた。仕事への真剣味を感じたし、何より面と向かって話が聞けて充実した」。

一方、採用担当者は「概要説明に終わりがちな大会場と異なり、企業の実像を分かりやすく話すよう努めた。大規模イベントに参加しただけで満足という上滑りも感じる」と分析する。

主催したパフの伊藤慶志・市場開発グループマネージャーは「イベント数の増加で目標が高くなり、学生の出席率が高くなっている。採用企業やわれわれ業者には「学生の売り手市場」との思いがあるが、学生自身にはまだそこまで意識がないようだ」と話した。

同じ日、品川区で開かれた中堅企業14社の合同オープンセミナー。業界大手に集中する学生の関心を引き寄せようと採用担当者たち自身が協力して主催するセミナーだ。

主催したパフの伊藤慶志・市場開発グループマネージャーは「イベント数の増加で目標が高くなり、学生の出席率が高くなっている。採用企業やわれわれ業者には「学生の売り手市場」との思いがあるが、学生自身にはまだそこまで意識がないようだ」と話した。

同日、品川区で開かれた中堅企業14社の合同オープンセミナー。業界大手に集中する学生の関心を引き寄せようと採用担当者たち自身が協力して主催するセミナーだ。

就職支援業者の力を借りず、参加企業の持ちビルを会場にしたり、名札を参加企業が作製したり。企業の参加費は2千円。各大学でのポスター掲示や口コミによる募集だけで、予想を上回る123人が参加した。

日本女子大3年の椎名祐子さんは「髪を染め染めた子さんは「髪を染め染めた子さんは「髪を染め染めた子さんは」にエントリーしたり、周囲が突然動き出したので慌てています。1日

10月18日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれたイベントには業界大手など94社が参加し、8千人以上の学生が出席した。ブースでの企業説明のほか、有名教授による基調講演や企業の講演会など、多彩な内容が繰り広げられた。

4社の説明を聞いた東洋大3年初次選明さんは「最前列の学生はメモを取って真剣なので驚いた。人気企業には大勢並び、改めて倍率の高さを実感した」。

主催したアクセスコーポレーションの根津智寿・第一営業部長は「服装は自由だったが予想以上にスーツが多く、就活の動き出しが早い気がした。半面、時間に遅れてもゆっくり歩く学生も目立った。学生間の就職意識の二極化が進んでいる気がする」と話した。